



第23回 ひとよし温泉 マラソン



- 1 ハーフの部では約1700人のランナーが人吉税務署前をスタート。ハーフの部を制した梅本和海さん(熊本市)がスタートから群を引っ張った
- 2 多くのランナーがそれぞれの仮装で大会を盛り上げた
- 3・7・12 コースの各所では、地元のおもてなしとして飲み物や軽食を提供。ランナーにエネルギーを注入した
- 4 ゴール後にはガッツポーズなどをして達成感を味わった
- 5 自己タイムをパネルに表示させ記念撮影するランナーも
- 6・8 沿道には、市民らがランナーを温かく応援。楽器の演奏や仮装で応援しランナーを後押しする人も
- 9 登り坂の難所が待ち受ける下戸越町を走るランナー
- 10・11 球磨川沿いを駆け抜けるコースも大会の魅力

スポーツLJ WINNER 0000 BIG



松岡市長もハーフを
完走しました!

厳しい寒さの中、第23回を1月25日に開催し、全国各地から集まったランナーが、冬の人吉路を力強く駆け抜けました。

今大会ではハーフ、10キロ、3キロ、2キロの4部門に約3200人のランナーがエントリー。市街地や球磨川沿いのコースを、それぞれの目標に向かって走りました。

沿道には、多くの市民が詰め掛け、「頑張れ!」と声援を送ったほか、楽器の演奏や仮装で応援するなどし大会に花を添える光景も。コース途中では地元住民がバナナやあめなどを用意し、冷え込む中、走るランナーを温かくもてなしました。

また、走り終えたランナーにつぼん汁を振る舞うおもてなしも6年ぶりに復活。ひまわり亭の本田節さんや熊本県立大学生らを中心に、地域のさまざまなボランティアスタッフが集い、アツアツのつぼん汁でランナーの疲れを癒やしていました。

ゲストランナー



上野由香子さん(肥後銀行)

儀藤優花さん(肥後銀行)



▲前日には多くのボランティアの協力で野菜の切り出しなど下準備を行った

▲当日は前日に仕込んだ材料を4台の大鍋で炊き、温かいつぼん汁を提供した

▲おもてなしテントには走り終えたランナーが長蛇の列を作った

